

令和6年度(2024年度)セタシジミ肥満度モニタリング

孝橋賢一・井戸本純一・久米弘人

1. 目的

近年、セタシジミ資源では産卵期を迎えても親貝の肥満度が上昇しない現象が見られることがある。本現象は、北湖一円の漁場で起こっており、その増減傾向はほぼ一致している。そこで、2010年度以降、主要漁場の一つで水深の幅が広い松原漁場において肥満度のモニタリングを毎月実施し、肥満度の変動要因を検討するための基礎資料とした。



図1 松原漁場の水深別定線（破線）

2. 方法

彦根市松原町地先のシジミ漁場に等深線と平行に4本の調査定線を設けた（図1）。毎月下旬ごろ、調査用定量桁網（採取幅8cm、袋網の目開き10mm）を用いて定線上で採集調査を実施し、成貝について漁場別調査と同様¹⁾に肥満度を測定した。

3. 結果

各定線における肥満度の推移を図2に示した。2024年シーズンにむけた肥満度は、前年9月に最も低くなり、それ以降回復し始めており、産卵期にむけた肥満度の回復時期は、過去10年平均と比較して、やや早い傾向があった。その後2月には肥満度が平均3%を超え、5月に2024年シーズンの最高である3.2%に達するまで3.0~3.2%で変動した。

水深別に2024年シーズンの肥満度の変動を見ると水深10mでは1月に3%を超え、4月に3.7%でピークとなり、1月から6月まで3.1~3.7%で推移した。10月に1.6%でシーズン最低となったあと、11月から回復しはじめた。一方、水深15mでは5月に3.7%、4.5m、5mでは3月にそれぞれ3.7%、3.9%でピークとなった。

2025年シーズンにむけた肥満度の回復については、2024年11月以降と前年より遅く、過去10年平均と同時期であったが、2025年2月時の水深15mおよび10mにおける親貝の肥満度はそれぞれ3.4%、4.0%と前シーズンよりも高く推移しており、やや餌環境が良好であったことがうかがえた。

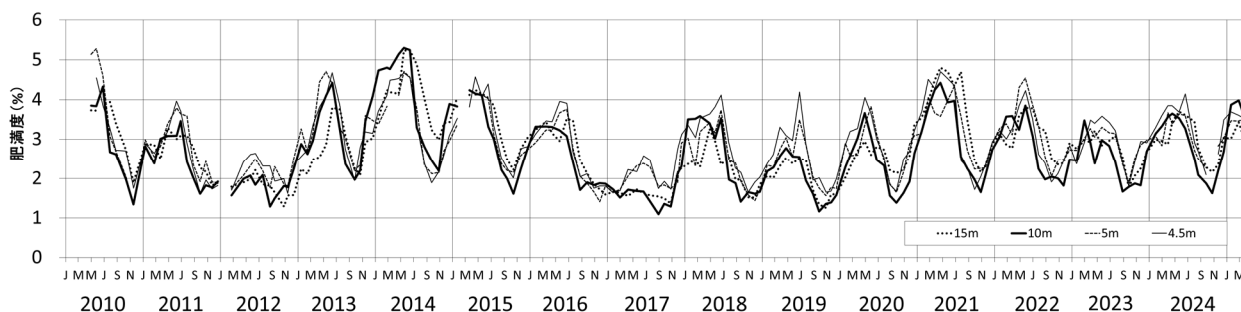


図2 松原漁場の水深別定線におけるセタシジミの肥満度の推移。

1) 令和5年度(2023年度)セタシジミ漁場別産卵前肥満状況

肥満度(%) = 貝の中身(軟体部)の乾燥重量 / 貝全体の重量(貝殻および内部の水を含む) × 100
本研究は水産庁からの委託事業「水産資源調査・評価推進委託事業」の一部として実施した。